

第 2 回仙台市不登校対策検討委員会議事録

- 日 時 平成 30 年 2 月 28 日（水） 午後 6 時 00 分～8 時 00 分
- 場 所 上杉分庁舎 教育局第 1 会議室
- 出席者 別紙名簿のとおり
- 会議の内容
- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 協議 「不登校の未然防止と初期対応など新たな不登校児童生徒を生まないための対策について」

・ 佐藤委員長

会議の公開・非公開について仙台市の附属機関等の設置及び運営の基準に関する要綱の第 4 条（2）において、会議の公開・非公開は、当該附属機関等において決定するとされておりますが、（2）のアに記されております仙台市情報公開条例第 7 条各号に掲げられる情報を扱う場合には非公開とすることができるとされています。本日は仙台市情報公開条例第 7 条各号に掲げられる情報は扱わないことから協議は公開とすることを提案したいと考えますが、委員の皆様いかがでしょうか。よろしいですか。→ 承認

本日の検討委員会の議題については、公開とします。

今後、検討委員会の協議の場において、仙台市情報公開条例第 7 条各号に掲げられる情報を扱う場合は非公開とする場合もあります。

それでは、本日の協議に入りたいと思いますが、今日は、不登校児童生徒の実態把握に関する調査について検討していただければと思います。既に皆さんの手元にあるかと思いますが、早めにご皆さんにはお渡ししていたかと思いますが、内容についてはお分かりかと思いますが、今日は、調査 A・B 学校調査と保護者調査 C、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー調査 D となりますが、その内容について検討していただくこととなります。保護者調査については、十分配慮しなければならない点がありますので、最後にしたいと思います。まず、A・B 学校調査のほうから検討したいと思います。A と B を見ていただきたいと思いますが、学校用 A、学校用 B となりますが、これはあくまでもたたき台です。この内容で本当に良いかどうか、ぜひ御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

・ 望月委員

A のⅢの 3（2）・（3）・（5）についてです。「不登校の早期発見・早期対応」のうちの（2）教育相談の充実（3）情報の共有（5）校種間接続期の課題への対応のところは、内容的に不足していると思う。教育相談であれば、学校が教育相談を適切に行ったかということイメージされるのですけれども、そこがどうも出てきていない。同じく情報の共有のところも校内でどうなのか、もう少し表現を変えてもいいのかな。（5）は幼稚園・保育園というところでは、今までもやっているわけですよね。それがどうも機能していないわけだから、むしろそれが機能しているのかどうかということ聞いていかないと、単に形だけ整えても同じかなと思ったのですけれども。

・ 佐藤委員長

どういう聞き方にしたらいいのでしょうかね。

・望月委員

すごい簡単にすると、いただいた資料で、例えば役に立ちましたかとか、簡単に言うと。あるいは、実際に活用したのかとか。割合学校に行くと分厚い引継ぎがあってもそのまましまわれているということが多いですね。学校に行ってみると、小学校も中学校も。

・佐藤委員長

はい、ありがとうございます。コメントを付け加える形になるのでしょうか。

・望月委員

内容、表現をちょっと変えた方がいいのかなということです。

・佐藤委員長

はい、ありがとうございます。あとはいかがでしょうか。

・石川委員

Aのほうですけれども、Iの5「不登校児童生徒の対応について」ですが、具体的に先生方の自由な記載、具体的な支援が先生方にもあるかもしれないので、そういったところを先生方が考えられている支援というのでも聞いてみたいと考えます。

・佐藤委員長

実際はこうなんだけれども、こうしたいということですか。

・石川委員

そうですね、選択肢の中にも該当しないものがあるかもしれませんので、先生方がお感じになられているような支援というものがあれば記載していただきたいなと思います。

・佐藤委員長

Iの5の(1)のところですか。

・石川委員

新たに5の(3)としてです。

・佐藤委員長

取り組みたいことということですか。

・石川委員

はい、取り組みたいこと、あるいは有効だと思われること、あるいは感じていることなどを聞いてみたいですね。

・佐藤委員長

はい。ありがとうございます。どうぞ。

・須長委員

Aのほうですけれども、先ほどIの3番4番で重要度と、それからどのように取り組んできたかというところがありますが、学校で調査を受けるときに当てはまらないということもあるので、「その他」という形で自由に記述するところがあるとよい。あと、重要度というところがあるので、それについても書くようにできると記述はしやすいのではないかと考えました。

・佐藤委員長

では、Iの3のところに(選択肢番号)9にして「その他」を、4もそうですね。「その他」を加えるということですね。はい、ありがとうございます。そのように具体的に言っただけだとありがたいです。

・石川委員

Aの「Ⅲ未然防止について」の「2 魅力ある学校づくり」の項目の中で、(6)として、「地域との連携」を入れるとよいと思う。学校はいろいろと地域とつながる活動など多いですので、ぜひ聞いてみたいところです。

・佐藤委員長

項目を付け加えるということですか。

・石川委員

はい。項目を付け加えていただければ。

・佐藤委員長

地域との連携についてですね。

・石川委員

はい、そうですね。

・佐藤委員長

ありがとうございました。はい、お願いします。

・高橋委員

「Ⅲ未然防止について」「2 魅力ある学校づくり」について(の問い)で、「あなたの学校では、今年度、以下のことにどの程度取り組みましたか。」とありますが、いつ調査をするのか。今年度中なのか来年度になるのか。

・佐藤委員長

これは調査の時期によると思います。「今年度」とするか「昨年度」になるかもしれません。

・高橋委員

新年度早々だと、まだ取り組んでないので、前年度からこのような調査をするという告知が学校のほうにもしあるとしたら、それに備えた準備はできるのかと思います。

・佐藤委員長

この辺の時期も検討しなければなりませんね。ありがとうございました。

・高橋委員

「Ⅲ未然防止について」「2 魅力ある学校づくり」「(1) 学級づくり(集団づくり)について」ですが、この調査そのものを記入する方が、どなたかに聞いてかと思うのですが、その学級だったり、担任だったり記入することで、学校として回答ということか。

・佐藤委員長

どんな工夫ができそうですか。誰が誰の意見で回答するかということですね。

他にBのほうはありませんか。

・梅田委員

1点目は全体についてです。これは紙ベースで回答するものなのか、パソコン、ネットワークで答えるのか。

・佐藤委員長

できるだけ集計しやすいかたちで。

・梅田委員

今高橋委員からもありましたが、Aは学校対象ですが、誰が回答するのかある程度統一しておかないと、回答する人によって答えがばらつく可能性が出てくるかなと思いました。それから、「Ⅲ

未然防止」のところの1の(選択肢)「1集団づくり」と「3学校づくり(学級づくり)」はどう違うのかというところが不明確である。それから、「2魅力ある学校づくり」の(3)分かる授業づくりについて、「1どの子供にも『分かった』『できた』という成功体験を味わわせていた。」と、「2理解不十分な子供を見つけることができている。」とありますが、この分かる授業づくりの項目(選択肢)がどのような根拠で出てきたか。また、「3自分の考えをしっかりとノートに書かせていた。」ということと分かる授業をしたということがどう関係あるのかと思う。それよりも、例えば指示の出し方とか教示の内容を分かりやすく工夫したとか、あるいは、分かりやすい授業づくりに向けて学校全体で授業改善に取り組んだという項目のほうが、学校として答えるのだったらいいのではないか。多分、他の資料を見せていただくと、仙台市生活・学習状況調査で「(学校の授業などで)ノートの自分の考えをまとめることができている」ということがあるので出てきたのかとは思いましたが、「分かる授業づくり」の項目(選択肢)の中では不思議かなと思いました。

(5)家庭との連携について、「4家庭での学習の時間を確保するように働きかけていた。」という事は、連携にどう関係するのだろうか。3が「基本的生活習慣の定着」についてだから、「保護者との連携」とか、「保護者の支援をしていた」とか「保護者の相談に常に対応するように努力していた」という項目のほうがいいのではないかと、何か意図があるのなら説明してほしい。

続けてよろしいですか。調査Bは個々の子供について付けていくのだと思うのですが、「I不登校児童生徒の発現時」の「1不登校児童生徒について」「(3)児童生徒の特性」「ア発達障害の有無、医療機関とのかかわり、診断名等について」で、診断名がある場合はいいと思いますが、「疑い(診断なし)」というのは一体誰が判断して「疑い」を付けたらいいのか、誰が書くのか、担任が書くのか、生徒指導主任か、不登校担当の先生か、あるいは教頭先生が書くのか、養護教諭の先生が書くのかで違ってくると思うのですが、個々の個人が判断したものでいいのか、あるいは、校内委員会等で判断した場合について書くのかは検討が必要かと思いました。

・佐藤委員長

具体的にはどこですか。

・梅田委員

「(3)児童生徒の特性」「ア発達障害の有無」「2疑い(診断なし)」というところですが、理由を書くところがあるので、ある程度お伝えしておいた方がばらつきは少ないかと思う。担任の先生がもし付けるとすると、担任が言ったから全部「疑い」に付けていいのかという話になってしまう。それでよしとするならよいが、それが校内委員会で話し合っただけで書いた学校と、担任が個人で判断して書いた学校では、全然結果が違ってくるのではと思いました。

それから、同じく(調査Bの)「I不登校児童生徒の発現時について」「5本児童生徒が登校しなくなった(学校を休みがちになった)当初、学校以外の相談機関や医療機関との連絡・連携を取りましたか。」というところで、「※中学校において記入する場合、小学校からの引継等により分かっていることを記入願います。」と書いてありますが、「1連絡・連携をした」「2連絡・連携をしていない」とありますが、ひょっとすると小学校からの情報がつながっていない場合があるかもしれないので、「3分からない(不明)」を付け加えるとよいのではないかと。もちろん、「分からない(不明)」はないほうがいいのだけれども、ただ現実としては、うまくつながらなかった、情報が伝わっていないということがあるとすると、「分からない」という項目(選択肢)があったほうがよい。そこから小中の連携をしなければいけないということが見えてくるので、せっかく調べていただくのだから、そうした項目(選択肢)もあったほうがいいのかと思う。

・佐藤委員長

「分からない（不明）」という項目（選択肢）を付け加えて、お願いします。

・菊地副委員長

（調査）Aですが、「Ⅰ不登校児童生徒の現状と支援について」「Ⅱ不登校児童生徒の内、別室登校や放課後登校の児童生徒はいましたか。」について。これは明らかに不登校児童生徒の中でということですが、実際には学校に来ていて、別室登校をしている子供たちの中には、30日まで欠席していない子供もいますので、その辺の子供たちの数的なものを記載する別表等が必要かと思います。

それから（調査）Bについて、これはこれからの質問の項立てに関係するのですが、「Ⅱ当該児童生徒への対応について」「（2）不登校対策委員会の構成メンバー」について、一つの学校で10人の子供たちがいれば、この質問はどの子にも該当するので、こちらではなくて（調査）Aにもっていくほうが良いと思う。アンケートの項立てをする際に、一人一人ではなく（調査）Aのほうに。不登校対策委員会のメンバーはというと、だいたい学校で決まっていると思うので、この子の場合にはこのメンバーとかではなく、変わらないと思うので、（調査）Aのほうでまとめて聞くのであれば。（調査）A「Ⅰ不登校児童生徒の現状と支援」「Ⅴ不登校児童生徒の対応について」「（1）不登校対策委員会の構成メンバー」があるので。（調査）B「Ⅱ当該児童生徒への対応について」の「（2）不登校対策委員会の構成メンバー」「（3）不登校対策委員会の開催状況」はいらないと思う。

・佐藤委員長

はい。こういう御指摘も大変ありがたい。お願いします。

・高橋委員

（調査）Bの「Ⅰ不登校児童生徒の発現時について」「Ⅰ不登校児童生徒について」「（2）不登校発現時の学力レベル」が分かりづらい。

・佐藤委員長

どんなふうにしますか。学習状況も押さえておかなければならないと考えている。授業についていける子ども、なかなか難しい子どももいると思いますが。

・須長委員

これは中学校だと試験を受けたりとか、授業での様子などいろいろな情報をもって判断できるかと思う。

・佐藤委員長

学校の先生、菊地副委員長と須長委員、実際に調査を回答していただいてどうだったか、感触などを話していただきたい。

・菊地副委員長

本校の不登校支援コーディネーターに、実際に（アンケートを）やってもらったが、（調査）B「Ⅰ不登校児童生徒の発現時について」「Ⅰ不登校児童生徒について」「（3）エ 直近2年以内の転入について」の項目（選択肢）に「3不明」とありますが、これは2年前のことについて「不明」というのはあり得ないのではないかということで、カットしてもいいのではないかという意見でした。それから「（4）不登校発現時前の家庭・養育環境について」は書きにくいのでは。具体的などのようなことを書けばいいのか、私も聞かれて戸惑いがありました。あとは先ほど委員の皆様が御意見出されたものに入っています。

・石川委員

(調査) Bの「Ⅱ該当児童生徒の対応について」「3不登校児童生徒への支援に、どのように取り組んできましたか」の項目(選択肢)「15家庭訪問」そこで、先生方が会えたのか会えなかったのかを聞いていただくと見えてくるものがあるのかなと思う。

・佐藤委員長

先ほどもありましたが、ここは必要ないのではないかという項目がありましたら。

・小林委員

(調査) Aの「Ⅰ不登校児童生徒の現状と支援について」「4不登校児童生徒への支援にあたり、どのように取り組んできましたか。」の項目(選択肢)「20児童生徒の気持ちの裏に潜んでいるかもしれない心の病を把握した支援」は、具体的でもいいのかと思う。何をさしているのか、例えば、医療機関と連絡を取ったのかどうかということなのか、親御さんから病院に通っているという話を聞いてそのことを踏まえて、何かをしたというようなことなのか、もう少しはっきりとさせるといいのかと思う。

・佐藤委員長

4の20番目の項目(選択肢)の文章ですね。どんなふうになればいいでしょう。

・小林委員

何を意図したところなのか。先ほどお話ししたように、病院の先生と連絡を取ったということをしているならば、その辺のことを聞くのはいいかと思うし、親御さんからどこどこに通っているとか、どんな薬を飲んでいるとかという話を聞いて、それを踏まえて何かされたというようなことなのか。その下にさらに(メンタルヘルスリテラシー教育等)と書いてあるので、それは多分、お子さんなり、保護者の方に「このような心の症状というのがあるんですよ」と教えることを指しているの、そこは少し違う内容になるのでは。その辺が整理されるといいと思う。

・針生委員

具体的な質問項目ということではありませんが、例えば不登校対策委員会というのがありますが、その中で学校毎に濃淡があったり、委員会があつて、なおかつその委員会に所属していない先生方との情報の共有とか、ノウハウの共有に課題があるのかどうかというところを、何らかの形で分かるような質問項目を入れたらいいのかと思う。例えば、(調査) Aの「Ⅰ不登校児童生徒の現状と支援について」「5不登校児童生徒の対応について」「(1)不登校対策委員会の構成メンバー」について、私も会社の経営をやっている、いろいろな情報が伝わらなかったり、ノウハウが共有されないということが、まま感じられるので、おそらく学校現場の中でもそのようなことはあるのだろうなと思っていて、教員が熱心な学校とそうでない学校があるのかないのかということは、私も承知はしていませんが。あと、現場の先生方が、「うちの学校はこういうところに課題があるのではないか」というようなことを何かしら吸い上げられるような質問の設定をしていただければと思います。書くのは校長先生や教頭先生だったりする場合は、なかなかそれは出てこないかもしれませんが、現場の先生方が、「意外とうちの学校は、こういうところがちゃんとやられていないのではないか」とか、そういうようなことが学校毎にばらつきがあるのか、吸い上げるような項目があつてもよい。どのように質問を設定するのかは事務局にも考えていただくとして、そのようなことがあつてもいいかと思う。

・望月委員

学校で一つ出すものならば、それは出てこないと思う。例えば、先生方一人1枚書いてくださいというのであれば出てくるでしょうけど。担任の先生が、校長先生、教頭先生に異を唱えたということになり、それはとてもアンケートでは出ない。今回はちょっと無理じゃないですか。

・佐藤委員長

アンケートではなかなか難しいところですか。

・須長委員

でも、不登校の対策で、問題に感じていることとか、学校でうまく進まないことは何ですか。というようなことで、自由記述だとなかなかぱっと出てこないかもしれないですけど、具体的に情報共有とか、具体的な子供への対応とか、そういう項目があって、その中で学校で困難、対応の困難とか不登校の対策で困難なことはどこですか。というようなことであれば、先生たちは答えやすいのかなとは思うのですけれど。一般の先生たちは。

・望月委員

学校で一つ回答する場合にも反映されるだろうということですか。

・須長委員

はい。そのように思うのですが。それで、異を唱えているとなるとまた、問題があるかもしれないですけども、担当者レベルだとそういうところで対策を進めるにあたって困難を感じていますとか、難しさを感じていますとか。

・望月委員

担当している先生が回答するのであれば出てくると思うのです。結局いろんな意見がある中をまとめて一つ学校で出そうと言ったときに、出てくるかどうかということです。

・須長委員

そうですね。ちょっと工夫が必要かもしれないですね。

・佐藤委員長

ありがとうございます。

・梅田委員

たぶんそうだとすれば、先ほど回答者を誰にするかといったときに、不登校のコーディネーターの先生方が、回答するというのでお願いすれば、一つは良いのかなということと、今のところで、例えばこれを設置しているかないかだったら、たぶん、仙台市が設置しなさいと言ったらみんな設置しているのだと思うのですけれども、例えば先生がおっしゃったとおり、(3)として、不登校対策委員会が効果的に機能していますかということで、機能している、なかなか機能しにくい、機能していないとして、機能していない場合の理由として、例えば、時間の調整が難しいとか、会議を設定する余裕がなかなかないとか、という理由を先生が言ってくださったように、項目を挙げておいて選ぶ感じであれば、比較的出てくる、全てが出てくるかどうかは分からないですけども、少しは出てくるかなという気がします。要は、設置しているかないかだったら、たぶんやらなくても分かるもので、本当に機能しているかどうか、機能していないのであれば、何が原因になっているのか辺りを調べられるといいのかなと、話を伺っていて思いました。

・佐藤委員長

なるほど、この辺を聞く形にする。

・梅田委員

自由記述にするとこの調査全体が自由記述が多いので、かなり調査も負担かなと思うのですね、答える側には。ですから、できるだけ項目設定できるところは設定して、あとその他にしておけば、選べるものは選んで、その他になればその他を書く感じになる。だいたい会議がうまく機能するかしないか、時間の調整と、先生方の空き時間がないとかいうことと、会議の設定日がなかなか難しいということが大きな検討課題になると思います。

・佐藤委員長

ありがとうございます。よろしいですか。学校調査AとBを検討していただきありがとうございます。時間も限られているので、SC、SSWの調査、これはDになります。いかがでしょうか。

・望月委員

これは、スクールカウンセラーとソーシャルワーカーが書くということですよ。本来この一番最後のページのどれくらい効果を上げることができましたか。カウンセラーとソーシャルワーカーが判断するところではないような、むしろ学校に判断してほしい。

・佐藤委員長

学校調査に。

・望月委員

どうしてもやる立場だと甘くなってしまう。

・佐藤委員長

自己評価。

・望月委員

これだと主観的な判断になってしまう。主観的だと、まだ登校渋りにもあまりなっていないレベルで話を聞いて、結果としてそのレベルだから解決しやすいですよ。それをいっぱい事例で上げてきたら、解決率高いけど、もうちょっと進んだ事例に対してはどうなのだろうという話になる。

・佐藤委員長

この辺りを学校調査に盛り込むという形を考えていますか。

・望月委員

私個人としては入れてほしいなと思いますけど。

・佐藤委員長

Aの辺りですか。

・望月委員

そうですね。

・佐藤委員長

ありがとうございます。どのくらい取組、支援の効果があつたか押さえるということで。あと、いかがでしょうか。

・梅田委員

スクールカウンセラーの方はかなり人数が多いので、経験が少ない方から多い方までたくさんいらっしゃると思うのですが、だいたいそれぞれ担当されている学校で、どのくらいの不登校の子供に関わっているのかというのを、伺ってもいいのかなというのも気になっていて、終わりのほうに何%改善したかというのがあるとすると、1件しか関わっていなければ、それで終わりになってしまうということと、実際にカウンセラーの方がどれくらい、ひよっとすると関わりたいと思っけていてもなかなか関われないような、学校との連携がなかなか上手くいかないという状況もあるか

もしもせんし、多く関わっている方との間でどれくらい差があるのか、ということもカウンセラーの方の、そう考えるとカウンセラーの方の経験年数とか聞かなくていいのかなというようなこともちょっと、仙台市のスクールカウンセラーとしてとか、県のスクールカウンセラーとしてとか、今までの経験年数はどれくらいかということも含めて。

・佐藤委員長

項目としてですね。

・梅田委員

はい。これは、個人の方がそれぞれ書いてくださるので、そのようなことが聞けると、その後の改善の度合いとかの関係が出てくるのか出てこないのか。

・佐藤委員長

そうですね。経験年数、あとどれくらい不登校ケースに関わっているかどうかということですね。あと割合ですね。

・梅田委員

はい。年によって違うとは思うのですけれど、今年、昨年に限ってという形で、どれくらい関わってくださって、そのうちの何%が、改善したとかしないとかという話じゃないと、ちょっと変な話になってくるのかなという感じがします。

・望月委員

関連していいですか。細かくしていくと、ここでいう相談を、どういうものを相談としてカウントするかで、それこそ、カウンセラーの部屋に中学生が、休み時間に10人くらい来たときに、全部相談と上げていることもあるわけです。その辺がちょっと面倒くさくなるなと思います。

・梅田委員

そうですね。

・菱沼委員

今の話ですけども、今はそういうことはないのですが、遊びに来たのは遊びに来たと別枠でカウントするようになっているので、そこは明確に相談と普通の対応というのは分かれています。そこはちょっと違うのかなと。

・佐藤委員長

結構書く内容になっていますが、御負担とかいかがですかね。結構みなさん、考えていること、あるいは思っていること、判断するようなこと、それぞれお持ちなのかなと思っていますが。

・梅田委員

今の、先生がおっしゃった書く部分が多いというのは、私も感じていて、こんなにたくさん書いてくださるのかなと、ちょっとドキッとしたのですが、1番が背景要因としてどんなものがあるかということ、どの程度影響があるかと考えるかということと、理由を書くようになっているので、そう考えると改めて3枚目の2番、児童生徒が不登校になる主な要因は何であったか考えていますか、とここに書く必要があるのかなと、1番を大変なんですけど、きちんと書いてくださったり、番号を付けてくだされば、1～4までの度合いを書いてくださると、もうここは自明なのかと感じますので、またここで改めて同じことを書くことになるとと思いますので。

・佐藤委員長

3枚目の2、これは不要ではないかということですね。ありがとうございます。よろしいですか。それでは、調査Cですね。調査Cについては、保護者の方々の心情あるいはプライバシー、いろん

なことを配慮した形で、アンケートの内容や調査方法を検討する必要があるのだろうなというふうに思っています。ですから、ここでは、たたき台として、一般的にはこんな形なんだろうということです。例えば、記名式か無記名式かも大きなことですし、配布の方法、回収の方法もずいぶん考える必要があるのではないかと思います。後はアンケートで得られた情報の扱いをどうするかというのも含めて、皆さん是非御意見をいただければと思います。

・菊地副委員長

ざっと見た時に、1番の(2)にお子さんの氏名を書いてください、とあります。もしかすると、まず最初から保護者の方の中には、この辺で「不快な」思いをする方はいるのかなと思いました。それから、1枚目の2番にお子さんが、学校に登校できなくなってからどれくらいになりますかという質問なのですが、これは、どの段階で調査を実施するかということとも関係すると思うのですが、きっと、今このような検討しているということであれば、新年度になってからということになると思うのですね。そうしますと、よく子供たちの中には、今年度なかなか学校に足が向かなかつただけでも、年度が変わって学年が一つ上がったときに、心機一転頑張ろうかというようなことで、4月から登校のほうを頑張っているという子供たちもかなりいるのですね。そうすると、保護者の方々の中には、去年はちょっと学校に行けなかった時期もあるけれども、4月になって順調に行きだして、ちょっと安心なのかなと思っているところに、こういう調査が来ると、「何でまた前の年のこういったことで」というような思いをされる保護者の方もいるのかなということ、この辺は注意して対応していかないとダメなのかなという感じは致しました。

・梅田委員

今、先生がおっしゃったような中身というのは、たぶん子供を特定する必要があるのかどうかということなのだと思います。この調査全体の集計をしたときに、何かしら特定するとか、何年以上不登校の子はこういう傾向の子、保護者の回答にはこういう傾向があるというような分析の仕方をする必要があるのか、ということを検討していただいて、万が一必要があるのだとしたら、学校が個々の子供用に、不登校の子供用にBを作るので、そこに関連させて、例えば、どの保護者に渡すかということを決まっているのであれば、関連するところで、お子さんの名前だけ書いてもらえれば、下の何年以上休んでいるとか、何か月休んでいるとかは親御さんが書かなくても、学校側が1枚1枚作ってあれば紐付できるはずですので、そういういらぬ情報は外していったほうが良いかなと思いました。このCを見たときに、保護者の方に書いていただくのに、すごく自由記述が多くて実際に保護者の方が書けるかな、というのが最初の印象として感じました。例えば2枚目の3番「お子さんが登校しなくなった背景にはどのようなことがあると考えていますか。」というのについては、あらかじめ選択肢を設けておいて、そこに外れたものはその他として自由記述で書いていただく。それから6番、他もあるかもしれないですけど、お子さんが登校しなくなった当初、学校以外の関係機関や医療機関などに相談、または利用したことがありますか、であれば、選択肢で、「ある」で相談した先の名前、「ない」というふうな選択肢で良いかなと。それから4枚目ですね。5番SCやSSWにどのような支援を求めますかも、求める支援の項目を挙げておいて、その他とすると良いと思いました。7番学校の対応や支援ではどのようなものが良かったと思いますか、ということについては、「良かった」・「不十分」をまず選ぶようにしておいて、良かったと答えた方には具体的に記述を、不十分と答えれば具体的なことがあれば記述をと、そうすると、少なくとも具体的な記述を書かなくても、「良かった」か「不十分」だったと思っただけは把握できる。そこは、そんな工夫ができるかと思いました。できるだけ負担を減らしたほうが、アンケートへの

回答率は良くなると思いますので、外せるところは外したらよいと思います。それから、1点だけ、これは明らかに間違いだと思う部分なのですが、3枚目のローマ数字Ⅱ学校からの支援についての1の10番授業改善、個別指導等のなぜか教室という言葉が入っている。他のものは入っていないので、分かる授業での支援だと思う。教室はいらないです。ミスプリントだと思いますので、外しておいてと思いました。

・佐藤委員長

選択肢の形に直すという考えですね。

・梅田委員

はい。チェックするだけでいいので。

・菱沼委員

私も、梅田委員の件で、全く賛成でして、特に4番なんかの選択肢、ア、イについては書きにくいので、この辺の選択肢というのは、学校用のほうに、ちょうど不登校発現時前の生活状況というのがありますよね。この生活状況がこのまま選択肢に入ってきてても良いのじゃないかと思いました。特に、早寝早起きの生活習慣であるとか、それから、朝食を食べたかとか、ゲームですよ、この辺りが、予兆というか変化の中にあらわれていたかどうか、ということも一つの原因等になるのかなと思いますので、こちらと同じような形で選択肢にしていってほしいのですが、せっかく学校用Aの方の6(5)ですか、この辺の選択肢と同じようなものを使ってもいいのかな。

・佐藤委員長

Aの何ページですか。

・菱沼委員

学校用Bですか、(5)にありますよね。不登校発現時前の生活状況です。2ページ目。この辺の生活をこのまま選択肢として使えるのではないかなと。

・佐藤委員長

ありがとうございました。

・石川委員

後ろから3枚目に、学校からの支援についてのところで、家庭訪問のところについてなのですが、本人が家庭訪問のところで、本人が会ったのか会わなかったのか、保護者が会わせたと、会わせなかったのかということも選択できると、家庭訪問の有効性ではないですけれども、保護者が受ける印象みたいなものを聞けるかなという気がします。本人が自らの意思で会ったか、会わなかったか、親が会わせたと、本人を押しそうですね。会わせなかったのかということのちょっと聞いてみたいですね。

・望月委員

それだと、ずっと関わってきた中で変化することありますよね。それはどうするのか。やはり細かく聞き過ぎちゃうとそこまで考えないと、正しくは返ってこないと思います。

・佐藤委員長

変化する場合はありますよね。

・石川委員

うちには、不登校を経て来ている子供たちがいるので、家庭訪問に対してすごく緊張感を持って怖かったという子供も多いですね。なので、ちょっとそれは、先生方にも知っていただきたいということもあって。

・望月委員

このアンケート自体が、困っている子供たちに焦点を当てたものではないですよ。おそらく内容を見ると、関わる側がどのように配慮したかということなので、家庭訪問だけじゃなくて、それをやるのだったら全体的に子供たちが何を困っているかを中心にとらないと、反映されないということになると思うのだけれど、そこは私も気になってはいるのですけど。今回どこまでやるかっていう話です。

・佐藤委員長

今の家庭訪問について、子供さんがどのような対応をしたか。緊張するとか。家庭訪問について改めて項目をもって聞くかということ。

・望月委員

そうしたら、訪問だけ聞くんですかということに。

・石川委員

私はこのところで、ちょっとチェックを入れるところがあって、聞いてみてもいいのかなと思ったのですけど、時期という問題がありますよね。

・望月委員

あります。やはりその子の特徴によって、家庭訪問をするにしても、できるだけ控えるように学校がするときもありますからね。だから、そこまではなかなか難しい。

・菊地副委員長

きっとこれは保護者の方が、これまで学校がこのような取組をしてくれたかって聞かれたときに、保護者はどれだけ理解できるのかなと思います。例えば上のほうを見て全職員及び、複数教員での共通理解とか、家庭訪問やフリースクールとか適応指導センターを紹介したとか、SCに要請して一緒に家庭訪問したとかですね。まあ、そういうような形の学校の取組は、保護者の方にもある程度分かっていたかとは思いますが、このうちの半分くらいはきっと保護者の立場からすると、なかなか理解しえない部分なのかなと思っていたので、もう少し簡単にというか、項目をもう少し絞るとか、そういうふうな形で対応したほうが良いのかなと思っておりました。

・梅田委員

私も、もう少し、これが学校用と同じ表現になっているので、保護者の方が分かりやすいような平易な表現にしたほうが良いかなと思いました。1番で学校がやったかやらなかったかというのを聞くのはなぜかと考え、なぜなのかと疑問に思ったのですけれど、学校がやったかやらなかったかは学校の調査で分かる。それを保護者がやってもらったと受け止めているかいないかということを知りたいのか、どうなのかということ。もし、学校がやったかやらなかったかということなら、保護者が受け止めていようがいまいが、学校の調査だけで良くて、聞くのだったら、以下の取組でどんな取組の効果があつたかとか、有り難かったかという聞き方のほうが良いかなと思う。やってもらってうれしかったとか、効果があつた支援はどれですかということで、保護者の方に分かりやすいような表現で、お子さんのケースによって効果があつた、なかったは違うと思うのですけれども、それでも保護者の方に聞くのだったら、そのほうが分かりやすいかなと。それと同列で考えると、SCやSSWという言葉自体も、1個設けてほしいのは、知らなかったという親御さんがいるかいないか、相談したことがある、ないだけじゃなくて、そういう存在があるということを知らなかった。学校が伝えてなかったという意味ではなくて、保護者は知らなかったと感じているのだとすると、もうちょっとその辺の周知から始めていかななくてはならない。親御さんもいろんな方がいらっしゃる

るので、聞いてなかった、知らなかったとっていらっしやる方も、ひょっとするとあるかなという感じでした。

・千葉委員

そもそも、保護者に調査するというのはすごいきついことですよ。すごく大変な時期にこういうものを渡されたら、みんなすごく、ただでさえ大変なのにその上にこれ書くのってみなさん思うと思うので、これを調査する目的が本当にどういうところなのかって思うのじゃないかと思うんです。自分の子供が大変なのだから、この調査をしたことで自分の子供に反映されるのか、それともそうじゃなく全く調査だけなのかということも、混乱している保護者にとってはよく分かりません。難しすぎて。それで、名前を書くのも絶対嫌だし、男女の性別を書くのも、お子さん以外の兄弟の中で不登校経験のある方はいますかとかいうのも嫌だと思います。あと、期間についても微妙ですし、気付きましたかとか対応しましたかとか聞かれると、対応しなかったということ責められているように思いました。なんか、相談しましたかとか、受容しましたかとか、そういう言い方だったらまだ答えやすいけど、自分の子供不登校になってしまったということで、ものすごく保護者さんたちは自責の念が強いので、そういう微妙なところをよく配慮して、もし調査するのであれば。私は、こんな調査はなくてもよいのではないかと思うくらいなのですけれども、それでもやっぱり必要で、何かに反映させたいということであれば、言葉の遣い方とかにも十分配慮して、簡単にするということをしてほしいなと思っております。

・須長委員

おっしゃる通りだと思うのですが、学校の立場からすると、不登校をお持ちの保護者の方がどのように考えて、学校の取組をどのように考えているのかということ、知りたい情報ではあるので、もちろん学校個別で知りたいということだけではないが、非常に保護者の御意見というのは参考になるのかなと思うので、不快な思いをさせないということを配慮した上で、答えていただけるものは答えていただいたほうが、情報としてというか、データとしてはありがたいかなとは思っています。

・小林委員

保護者の方にもし書いていただいたら、学校を通じて回収するのですか。

・佐藤委員長

直接送ってもらう形になるんだと思います。配布の仕方、回収の仕方を十分配慮しなければいけないと思います。

・梅田委員

委員長さんのご意見はもっともだと思うんですけど、もし、学校として委員会として、保護者の方が、Ⅱについて、学校からの支援についてどうお考えなのか、学校側としてはやっているけども、保護者の方がどう捉えているのかということを知りたい。あるいは、制度としてはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを整えてはきているけど、それがどの程度、保護者の側からすれば活用できているのか、という辺りを知りたいとしたら、いっそ、そっちに絞ってしまっ、前半の子供個人の情報は聞かない、それは、学校側も個別に把握しているものでBで出すので、それはそれとして、個々のケースとして保護者の方に必要な何うなり何なりして、全体として学校の支援をどう考えているのかであれば、Ⅱ以降のことで学校側がされてる対応、あるいは、教育委員会が整えてきている制度とか、そういったものについて、御家族や保護者の御意見を伺いたいとしてしまっ、実際に今やっていることについて、効果があると思っいるとかないとか、あるい

は自分の子供にとっては役に立ったとか立たなかったとか、というような御意見を伺うことにしてしまったほうが聞きやすいのかなど。

・千葉委員

自分の書いたものがどういうふうに役に立つのかが分かりやすい内容じゃないと。書くほうは、すごく疲労感だけが大きくて、大変なのにあえて書くという気にはならないと思う。書くことによって、きっと次の人たちに有効だろなって明らかに分かりそうな質問にしてほしいなって思います。そうすると割と、書かない人もいるかもしれないけども、書いてくれる人が増えるのではないかと思います。

・佐藤委員長

これはたたき台なので、Iが必要ないということであれば、そのほうがすっきりするかもしれないですね。学校からの支援について、どんなことが役に立っているか、あるいは役に立っていないかを含めて、意見をいただくという内容になるのか。

・千葉委員

私、親の会のボランティアやっているのですが、親の会の情報をもっと早く知りたかったと言ってくる人がすごく多くて、ネットで調べてきましたとか知人からって方も多いですね。比較的、学校からっていう方も最近が増えてきたなとは思いますが、適応指導センターを紹介すると、学校から見放されたと思うこともあるので、そこは慎重にと思われる先生方の気持ちもよく分かるので、適応指導センターの中にある親の会を紹介してもらえば、すごくいいなと思っているので。現に、親の会の情報とか、そういうのを見た人は「親の会ってあったんだな」と思うのではないかな。

・佐藤委員長

アンケートに親の会の情報を入れるということですね。

・千葉委員

具体的過ぎるとは思うが。

・須長委員

「II学校からの支援について」の1の選択肢の中の16適応指導センターとの連携というのがそれに含むのでしょうか。親の立場で書くときに、適応指導センターとの連携というのは、どういうことかなって。

・佐藤委員

分かりにくいですね。

・千葉委員

子供が通う場所じゃないですか、適応指導センターは。でも親の会ってというのは、また別で、全然動いていない親御さんが来て、そこで長く話しながら、大変ながら一生懸命やっていくっていう、とても貴重な場だと思うので、できれば別立てで書いてもらえるといいかな。

・佐藤委員長

親の会、適応指導センターも含めて？

・千葉委員

親の会で。

・菱沼委員

その場合、親の会というのは学校の親の会も入るのですか？

・千葉委員

それでもいいと思います。同じ立場の人と話をすると、保護者にとっては大事なことなので。自分の学校にあればもちろんいいと思いますが、ない学校も多いと思うので、ないときにはこういうところもありますよっていう情報提供をしてもらえると。

・佐藤委員長

アンケートだけでなく、付随するような情報も出しながらということ。

・千葉委員

これは私の希望です。

・佐藤委員長

配布や回収を慎重に配慮しながらということでしたが、御意見をいただけると。

・千葉委員

配布は学校からで、回収は郵送がいいんじゃないかな。出す出さないは学校に知られる必要がない。

・須長委員

いじめのアンケートがそのような形で、学校で回収するんですけど、中身が見えないようになっていて、学校を通さないで送れるとか、中身は見えないようにして、学校で回収しても。

・菊地副委員長

基本的にはですね、学校から渡しても、回収はとにかく直接出していただく方向でいいと思います。ただ、渡すときに、今、我々は不登校の子供の保護者に渡すということですね。不登校は30日以上と文科省で定めている。では、30日っていうと、例えば不登校気味で30日ちょっと超えた位でもその一人になるわけですね。そうすると、「おたくのお子さんは30日以上なので、調査をお願いしますかね」と言って渡したときに「うちの子は不登校だったんですか」となって、もしかするとそういう捉えをする方だっていないとは限らないのかな。例えば、かなりの数休んでいるということであれば、親御さんも確かにうちの子は不登校と理解していると思うのですが、だいたい週に1回程度休んでいる場合でも40日位にはなりますので、そのような子供の保護者に依頼をするときも、「うちの子はそうなんですか」というような不信感をもたれないような対応というの必要なのかなと感じます。

・小林委員

具体的にお知らせする・・・

・菊地副委員長

実際に調査対象を、文科省で定めている基準に沿って30日以上、不登校という理由で休んでいる子供たちの保護者の方に御依頼をする形になるんだと思うんですけど。そうすると、保護者の中には、そういった依頼があって、初めて「うちの子供も不登校だったのか」と理解するようなことがないでしょうかね。いかがですか。

・小林委員

30日以上欠席された方にアンケートをとるという形に。

・菊地副委員長

当然そうなると思うんですね。

・佐藤委員長

30日以上欠席してても、中には、びっくりするとか傷つくような方もいるかもしれない。

・千葉委員

おなかが痛いとか、頭が痛いということと別にしている場合はどういうふうになるのか。やっぱり微妙じゃないですか。そういうことで様子を見て、それで不登校になるのかどうなのか、学校でさえも不登校にするのは微妙なところかなというのがあるので、学校でも微妙なところを保護者にお渡しするっていうのは。だったらなくてもいいかと思う。そういうリスクを負ってまで。そうであれば、もう、完全に半年以上、長い期間、誰が見ても、親御さんが不登校と思われている方を対象にするとか、30日以上お休みっていうことじゃなくて、もうちょっと長くお休みしている方からの情報であっても、保護者さんの気持ちを反映するというのであれば。

・望月委員

そうなるとう始まる時に確認した、予防を中心にやろう、ということと、反映される意見が少しずれてしまう。

・千葉委員

予防中心に・・・そうなんですよね。私、これ見たときに、予防中心の会議だって最初言ったのに、これを取るっていうのが、何か私よくわからなかったんですよ。

・望月委員

私の勝手な解釈だと、保護者からの意見を言ってもらう。そこを聞かなくていいのかというためにあるんじゃないのか。

・佐藤委員長

意見は必要ですね。

・千葉委員

期間が長い人からの保護者さんからの意見は未然防止には役に立たないのかな。

・望月委員

それは、本来、一人一人の子供を中心に分析しなければ分からないですよ。今回、保護者の意見を聞くかどうか、って事なんでしょうね。それを対策に生かすかどうか。あるいは聞かないほうがいいのか。

・千葉委員

保護者は負担ですよ。それが有効だとしても。

・望月委員

そうしたら、やっぱり、保護者が負担であればやめたほうがいいんだと。そこが一番困っている人たちに負担をかけるのは、いいとは思わない。学校に聞いて、子供と保護者が何が一番困っているんですかを中心に。

・佐藤委員長

学校側だけの意見、情報だけで済むかどうか、というのがあるので。

・望月委員

カウンセラーは分からないですけど、ソーシャルワーカーは相談の中で毎回確認していくので、かなり把握出来るんですね。

・菱沼委員

確認はしている。初期対応という点で考えると、学校の対応と、それを受けた家庭の反応というのが、どういうものが出てくるかによって、初期対応のまずさというのが分かってくるんですね。その情報というのは、学校からの支援と、同じような項目を家庭がどう受け取ったかを比べてみる

というのが一つの方法かなと思っていたので、単に保護者にも聞くのかなと理解していました。

・佐藤委員長

「ズレ」ですかね。

・菱沼委員

そうですね。おっしゃるようにこれはかなり負担かかるんですよ。ボリュームもあって、どれだけの方が記入できるか、かなり難しいと思います。そうすると、そこまで負担をしてやるのであれば、それなりのものが出て、それを返せるような状態であるのならば、取る意味があると思うんですけど。

・佐藤委員長

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーがじかに把握しているものを提供してもらおう。

・菱沼委員

そうですね。学校のほうの対応で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをどれだけ利用しているかっていうのも、その辺の情報で共有できる場所が多いかどうかが上がってくるのではないかな。

・佐藤委員長

いかがでしょうか。

・梅田委員

確かに、保護者の負担があると私も思っていたので、だとすると、どうしても保護者の側の意見も聞きたいとすると、どの子ども学校に行けなくなる可能性はあるので、全ての保護者の方に聞いてみる、学校側の対応について効果があると思うか、ということ聞いてみるというのは一つの方法かなと思っています。もっと項目を減らして。たとえばⅡの1と対応するものはどういうふうにあらわすのかというのを対応させながら、保護者に聞くと、ある程度学校側が思っていることと保護者側が思っていることが一致しているのかを、データとして取れるのかなと思います。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについても知っているか知らないかということから始めて、一般の保護者も知っておかなければならないので、どのくらいの方が理解しているかというのを、学校側の思いと保護者の側の捉えの差異を見ていくんだしたら、全体にとってお答えいただける方がいるでしょうけど。あるいは、親の会というのがいくつかあるなら、親の会を通して、ぐっと数は少なくなるかもしれないけども、御協力いただける方をお願いをする、もっと量を減らして、表現も平易にしていますが、協力してもいいよと、後の方たちのためになるならと言ってくださる方をお願いをして、数的なことは置いておいて、貴重な御意見として伺うということはあるのかなと思います。まあ、やらなくてもいいかなとも思うんですけども。ただ、保護者の方がどう捉えているかは、学校側だけの話だと、学校はたぶんやっている、やっているというか、形だけでも含めてやっている。でも、実際にそれが効果が表れていないとすると、保護者がどう受け止めるか、本当はお子さんにも聞けるといいと思いますが、難しいので、少なくとも保護者に御意見を伺って、どこに捉え方の違いがあるのか、ないのかという辺りも検討すべき。全員に聞くのか、限られた方でも御協力くださる方に、きちんとお聞きしていくというふうに考えたらいかなと思っています。

・千葉委員

親の会ということであれば、できると思います。それが、予防ということに効果的なのか、そこに来るまでお母さんたちもそこ（親の会）に来るのに時間がかかっているの、果たして今回の目

的が予防ですよねってなっちゃうとその辺が分からないですけども、やってもらえる方だけでも。

・梅田委員

予防にしても何にしても、学校と保護者が食い違っているとしたら、うまくいかない大元になってくると思うので、そこが本当に食い違っているのか、あるいは似たような理解をしているところがあるのか、そこを知るということは大事、価値があると思います。

・須長委員

先生のおっしゃったとおりなんですけど、私たちとしては、ご意見をお聞きして今後に役立てたいというのがあって、アンケート取るときに、保護者に渡して取りましょうということ自体、学校側の感覚がずれているのかもしれませんが、千葉さんの言うとおりの、保護者の方が傷ついているのは分かっているのに、そのアンケートをお願いするということに学校側の感覚のずれがあるのかもしれないんですけど、それがなければ、そのずれも分からないし、貴重な意見で、学校側が対応を振り返って、早期に発見して対応するための手立てとして、活用させていただきたいという姿勢でお願いして取らせていただけるような、依頼と配布と内容を吟味してということで取らせていただければ、私たちにとって非常にいい資料になるのかなと思います。

・佐藤委員長

ありがとうございます。いかがでしょうか。他に。

・石川委員

私も保護者の意見をお伺いしたいなとは思いますが、ただ、負担になるということは避けたいというのは同じなんですけども。例えば、アンケートの前の文章を作って、御協力いただける方に依頼する。あとは、不登校状態を脱して学校復帰されている方に、不登校の経験をもとにして少し前のことを振り返ってもらってということをご協力いただける方に依頼し、聞くというのも一つの手立てかなと思います。

・佐藤委員長

時間が来ています。対象者をどんなふうにするか、絞り込んでいくか、対応していくかということも含めて、結論は出ないかもしれないんですけども、一応そういう形で、まず、やるとすれば、内容を変える形で、協力していただく方を探して、という形になるんでしょうか、中身については、私が副委員長さんと事務局の方で検討させていただくという形でもよろしいですか。

・望月委員

検討したあと、もう一回、諮っていただけるのでしょうか。

・佐藤委員長

はい。実際にどういう形で調査を進めるのかやっていければ。いろいろありがとうございました。

・佐藤委員長

その他として、皆さんから何かありますか。

・佐藤委員長

今日は、皆さんに大量の資料を、事務局に準備していただいて、中に私の、必要かなと思って準備した資料です。これは、仙台市の子供の生活に関する実態調査があります。この中にも家庭の環境と不登校の関係が触れられているところがありますので、目を通しておいていただければありがたい。もう一つは、国立政策研究所から出ている、不登校関係の調査の資料です。不登校の理解についてで、これも準備していただいたものです。目を通していただいて、話し合いに役立てていただければと思います。

・望月委員

資料の一つに、平成26年度の報告書の中でこれを見て思ったのですが、体制作りの提言はいっぱい出ているが、具体的に何を目標にするというのが全然出ていない。結局提案するだけで、学校の先生方の負担が増えて、「変わらないでしょ」となる。今回ここでも、できれば最終的には具体的な目標を3年かけて検証していく形にしていきたいと思いました。

・佐藤委員長

その他、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

・梅田委員

厚い資料のほうで、子供たちの調査のところで、学校生活のところが気になりました。学校生活自体楽しいと思っているかとか、授業は分かっているかどうか、学校のことで望んでいることも、もっともっと分かりやすく教えてほしいというところが一番多いのですね。前も申し上げたんですけども、不登校の子供たちの中には学習のつまずきという子供たちもかなりいるんじゃないか。この辺りをどう捉えていくか、もっと話しをする必要があるのではないか。学力調査の状況だけではなかなか見えてこない部分があるのかな。学力全体を上げていくことと、どの辺りでつまずき始めて、たぶん読み書き計算だと思いますが、学校の中でいえば何年生くらいでつまずき始めて、それが大きくなるのは何年生で、もし、子供たちの中にそのことが原因と思われる子供たちを、学校としてどのくらい把握しているのかということも併せて、家庭の状況は今回詳しく把握しようとしていますけども、学習のつまずきについても、せっかく調査をしていただけるということなので、もう少しこの項目の中に、学習の困難ということを学校側がどう捉えているかということも含めてで結構ですけども、今後もぜひ検討していただきたいと思いました。

・佐藤委員長

Bの評価で表す、学力レベルみたいなものがあるので、その辺りで評価の指定の学年を勘案すると今後見えてくるのか。

・梅田委員

もう少し、学習のつまずきが何に起因しているのか見えてくると、小1小2の段階で見逃しちゃいけない部分があるのかな、先送りにしてはいけない部分があるのかなというのを感じているので、その辺りについても、なかなか判断が難しいところではあると思うんですけども、担任が感じてる学習のつまずきがどの辺りであるのかということも、今後、調査の実施は来年度になると思いますので、御検討いただけたらと思います。

・佐藤委員長

それでは、ありがとうございました。